

研究の全体像

平成29～30年度の主な取組

伝統や文化に関する教育の充実に向けて、平成29～30年度には、文部科学省の研究指定を受け、美祿市立秋吉小学校・秋芳中学校・県立美祿青嶺高等学校が実践を整理しました。この取組をもとに、「伝統や文化に関する教育を充実させる4つのポイント」を次のようにまとめました。

- ① ベースとなる「やまぐち型地域連携教育」の仕組み
- ② 学校課題の解決に向けた教育課程の整理
- ③ 地域素材の教材化
- ④ 多様な学習経験（体験・多世代交流）

この取組を通じて、これまで個別に実施していた学習を一覧に整理したことで、校種間や教科間等、互いのつながりを俯瞰して見ることができました。また、地域と連携した様々な学習を構想したことで、地域資源活用の可能性を広げることができました。一方で、各学校の理念や育成すべき資質・能力を明確にして、教育活動の見直しを図る必要があるといった課題も明らかになりました。

令和元～2年度の主な取組

これまでの研究を踏まえ、令和元年度からは、周南市立和野小・中学校が文部科学省の研究指定校として取り組みました。また、岩国市立岩国中学校区（岩国中・柱野小・藤河小・岩国小・御庄小）、萩市立大島小中学校も協力校として実践を積み重ねました。

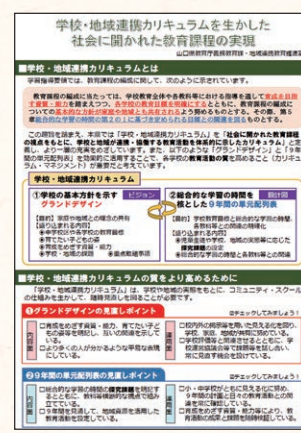
伝統や文化に関する教育は、学習指導要領（平成29年告示）では、現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容の一つとして示されており、総則の解説では、次のように述べられています。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編（一部抜粋）
第3章 第2節 2 教科等横断的な視点に立った資質・能力
(2) 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力
各学校においては、児童や学校、地域の実態及び児童の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等乗り越えて次代の社会を形成することに資する現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るとする。

これまで学校と地域が連携した様々な取組が行われており、児童生徒が地域行事に参加する姿や地域の方が学校運営や学校支援に携わる姿が日常的なものになっています。一方で、各学校では、地域の調べ学習や伝統的な祭りへの参加、地域へのボランティア活動等が断片的に「点」として扱われている状況も見受けられます。これらの取組が児童生徒の資質・能力の育成につながる「面」としての教育活動となっているのか、体系的なカリキュラムに位置付けられた持続可能なものとなっているのかを検討することが今後の課題となっています。

こうした取組を踏まえて、県教委では、本県の強みの一つである「やまぐち型地域連携教育」の土台の上に、どのような学習内容を構築することが児童生徒を伸ばすことにつながるのか、学校の特色を更に豊かなものにできるのかなどについて教職員や児童生徒、保護者や地域の方と交えて、改めて見直すことが必要だと考えています。

そこで、県教委では、資料「学校・地域連携カリキュラムを生かした社会に開かれた教育課程の実現」を作成し、各学校の「グランドデザイン」や「9年間の単元配列表」を見直す上でのポイントを示しましたので、各学校の参考にしていただきたいと思います。



和野中学校区 伝統文化教育推進を核とした9年間のカリキュラム 令和2年度

	小学校1・2年	小学校3・4年	小学校5・6年	中学校1年	中学校2年	中学校3年	
総合的な学習の時間	三作神楽の探究活動						
	中・高学年の三作神楽の練習や発表を見学し、自分の身近にある素晴らしい伝統文化を知り、自らも舞いたいという関心をもつ	地域の素晴らしい伝統を守る人々の工夫を知り、体験する 7月～10月 保存会の指導者を招いて練習する	10月 文化祭 中学年・高学年 「清めの舞」を披露する	3学期 地域の人々福祉施設で「清めの舞」を披露する	自分たちが伝承している伝統文化のよさを知り、多くの市民に向かって発信する 7月～10月 保存会の指導者を招いて練習する	10月 文化祭 全校生徒で「弓の舞」を披露する	11月 徳山駅前図書館前で三作神楽を披露する
	和田学のススメ						
その他の活動	地域を愛し、地域の伝統を引継ぎながら地域の未来を創りだす和田っ子を育成する 地域の方と一緒に育てた作物の収穫に感謝したり、昔の遊びをともに楽しんだりする			島地川を通して故郷和田について知り、そのよさを発信する 島地川流域調査班 島地川の思い出や伝承、災害について調査する			
	さまざまな体験活動を通して地域のよさを知る 地域の方と一緒にサツマイモやコンニャクイモを育て一緒に収穫する			さまざまな体験活動を通して発信する 「平和の鐘を鳴らそう～大津島」 ユネスコ活動として生徒会が参加する			

学校教育目標 自分のよさをみつけ、表現できる児童生徒の育成

<p>生活 あきとつしよに (地域の方と作物の収穫)</p> <p>生活 あそんでためてくふうして (地域の方と昔の遊び)</p>	<p>社会 市でつくられるやさいやくもの「高瀬こんにゃく」 「私たちの市周南」を使った学習</p> <p>理科 身近な自然の観察 春の生き物、秋の生き物</p> <p>音楽 篠笛体験 (三作神楽)</p>	<p>道徳 流れる水のはたらき、島地川観察、発電と電気の利用、島地川ダム見学</p> <p>音楽 篠笛体験 (三作神楽)</p> <p>理科 和田の好きどころを地図に</p> <p>道徳 地域の偉人「津田恒実」を学ぶ</p>	<p>保健体育 さんさ踊り</p> <p>美術 ほたるかごづくり</p> <p>音楽 篠笛・太鼓・箏体験</p> <p>家庭 特産品を使った調理実習</p>
---	---	--	--



- ① 総合(森林学習) 和野小学校
和野小学校では、3・4年生が和田地区にある周南森林組合を訪ね、和野丸太の生産工程について職場の方から説明を受け、杉の皮むき体験を行った。
- ② 総合(和田学のススメ) 和野中学校
和野中学校では、総合的な学習を「和田学のススメ」と称して、地域調査やその発信を行っている。今年度、島地川ダムには、ドローンを使ったダム撮影や実地調査を行った。
- ③ 総合(和田学のススメ) 和野中学校
ダムカラー一班は、生徒、教職員にダムカラーの図案を募集し、優秀作品を選んだ。選ばれた図をもとに、地域の食生活改善推進員等の協力の下、ダムカラーを作成した。
- ④ 総合(三作神楽) 和野中学校
徳山駅前三作神楽の公演を行い、会場には約250人の観客が集まった。三作神楽を発信することは、地域の文化財を伝承する担い手であることとを自覚する機会となった。

和野小・中学校の9年間のカリキュラムについて
和野小・中学校では、学校教育目標の達成に向けて、特に総合的な学習の時間を充実させている。総合的な学習の時間では、「三作神楽の探究活動」と「和田学のススメ」を軸に据え、9年間のカリキュラムを作成し、計画的・体系的な学習に取り組んでいる。今回の学習指導要領の改訂において、総合的な学習の時間については、内容の設定に際し、「目標を実現するにふさわしい探究課題」、「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の二つを定める必要があるとされている。探究課題は、探究的に関わりを深める人、もの、ことを示したものであり、和野小・中学校では、地域の伝統や文化とその継承に力をつくることを学習対象にしている。地域と連携した取組を充実させるためには、相応の活動時間や協力体制が必要となり、学校として、育成をめざす資質・能力を明確にし、軸となる内容や活動を整理するカリキュラム・マネジメントや、校内組織の見直し等の組織マネジメントが不可欠です。カリキュラム・マネジメントは、学校の特色を創り上げていく営みとも言えます。

岩国中学校区 小中一貫カリキュラム(地域学習:きんたいきょう学) 令和2年度

	小学校1年	小学校2年	小学校3年	小学校4年	小学校5年	小学校6年	岩国中学校			
態度	調べようとする						関わろうとする			発信しようとする
活動	見る・聞く・知る・わかる			まどめる・つなげる			伝える・広げる			
柱野小学校	千体仏 五所神社 香馬クラブ訪問 しめ飾りの見学 書道の遊び	柱野について調べよう 御庄川を調べよう	きんたいきょう学 さつまいも植え付け、収穫、焼きいも	柱野地区の消防施設	きんたいきょう学 しめ飾りを作る	安心、安全マツ作り	地域の文化財を 発信	地域の文化財を 発信	地域の文化財を 発信	文化祭 錦帯橋PRプロジェクト(京都市)
藤河小学校	きんたいきょう学をわたりよう	錦帯橋をつくろう	シロヘビと なかよくなろう	岩国焼き作りに 挑戦しよう	きんたいきょう学 ななつこころ	きんたいきょう学 ななつこころ	地域交流活動 職業講話・職業講話・自然教室・文化祭	職体験学習・立憲式・文化祭	職体験学習・立憲式・文化祭	職体験学習・立憲式・文化祭
岩国小学校	季節と遊ぼう (吉香公園)	わくわくどきどき 「岩国のまち」 たんけん大発見	調べよう 昔のくらし	郷土を聞く 城下町 岩国 だれもがほこれる 錦帯橋	知ろう岩国 伝えよう わかろう	知ろう岩国 伝えよう わかろう	きんたいきょう学 ななつこころ	職体験学習・立憲式・文化祭	職体験学習・立憲式・文化祭	職体験学習・立憲式・文化祭
御庄小学校	さあ みんなで でかけよう	レッツゴー町 たんけん	いづくにへ ようこそ 御庄の交通に ついて調べよう	御庄地区 安全マップを 作ろう	御庄で働く 人々から 学ぼう	御庄で働く 人々から 学ぼう	きんたいきょう学 ななつこころ	職体験学習・立憲式・文化祭	職体験学習・立憲式・文化祭	職体験学習・立憲式・文化祭
学びの共有	中3生での錦帯橋PR活動を9か年のきんたいきょう学の集大成とし、発達の段階に応じた学習活動を小・中・小・地域との連携の中で系統化し、コミュニケーション能力を高めていく(小小連携)○講師の話を聞く 〇きんたいきょう学ガイドの同日実施 〇学習成果の交流・発信(製作物等) 〇低学年から錦帯橋と関わる学習(地域連携) 〇きんたいきょう学ガイド実施に向けた知識・技能の獲得 〇実施後の評価 〇学習材・施設・人物等の共有(小小連携) 〇中学生が小学生にガイドの心構えや留意点をアドバイス 〇中学校の錦帯橋PR活動・職体験学習の実態を紹介(中学校一日入学を利用)									

<p>柱野小学校 伝統的なしめ飾りや錦帯橋について学ぶ 柱野地域で受け継がれてきたしめ飾りの製作体験をとおして、ふるさとを愛し地域文化を大切にしようとする気持ちを育てる。また、地域の方とのふれあいをとおして、経験をもとにした技を学び、尊敬の念を育む。 児童は打ちやわらない、飾り付けなどを地域の方と行うことで、しめ飾り作り技術の素晴らしさを体感した。</p>	<p>藤河小学校 ふるさと学習に 関する総合的な学習 「いづくにへようこそ御庄の交通について調べよう」 6年生では錦帯橋の架け替えを経験された橋造について話を聞き、アーチ橋を組む実技を行った。学んだことからは、ボランティアガイドの方には伝え方についての指導を受けた。</p>	<p>岩国小学校 6年「きんたいきょう学ガイド」 6年生は、地域の文化遺産について学び、観光客や地域の方に伝える「きんたいきょう学ガイド」の実践を継続している。ガイドに向けて、吉川資料館や御古館の方、錦帯橋の架け替え時の棟梁に講義をいただいた。また、ボランティアガイドの方には伝え方についての指導を受けた。</p>
<p>御庄小学校 伝統や文化に関する教育の充実に向けて ふるさとを愛する錦帯橋や錦帯橋を支えている人々について調べ、調べたことを発信する活動を通してふるさと岩国に対する思いをもつことを目的とした学習を行っている。錦帯橋に行き、実物を見ながら説明を聞くことで、錦帯橋のすばらしさや錦帯橋に対する岩国の人々の思いを改めて発見できた。</p>	<p>岩国中学校 総合(地域交流活動) 1年生は公民館で活動するグループの方々から、小糠(こぬか)踊り、三味線、俳句、華道、太極拳などを指導していただいた。小糠踊りは、江戸時代から親しまれ受け継がれてきた盆踊りで、三味線、太鼓の囃子とともに、今も地域の祭りなどで踊られている。</p>	<p>岩国中学校 総合(錦帯橋PRプロジェクト) 小学校からの地域学習の集大成として、2年生は広島で、3年生は修学旅行で訪れた京都で、外国の方に向けて岩国の紹介を行っている。この活動では、岩国市の伝統文化への理解を深めるだけでなく、コミュニケーション能力や情報発信能力を向上させることも目的としている。</p>

岩国中学校区の実践について
岩国中学校区(岩国中・岩国小・柱野小・藤河小・御庄小)では、地域の文化財を学び、発信する取組を系統的に実施している。4つの小学校では、6年生で同様に錦帯橋のガイドを行い、共通の経験をした上で、中学校に進学できるようにカリキュラムが工夫されています。また、中学校では、この経験を活かし、2年生では広島で、3年生では京都で、錦帯橋を紹介する取組を行っています。総合的な学習の時間では、児童生徒にとっての学ぶ意義や目的を明確にすることが重視されており、最終的にどのような活動が求められるのかを児童生徒が把握しておくことが重要です。岩国中学校区では、文化財を活用した探究課題を設定していますが、各学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人の暮らし、伝統や文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童生徒の興味・関心に基づいた課題などを踏まえて、探究課題を設定することができます。